『ダメじゃない』

紫　まひろ

【登場人物】

・銀城（ぎんじょう）　禎人（さだひと）・・・いつもぶっちょう面で人を寄せ付けない雰囲気を纏っている。
完璧主義者でプライドが高く、失敗を許さない。
自分に厳しく他人に厳しくという性格のため、人から好かれず
嫌われたり苦手に思われやすい。
そのせいで人から好かれるという経験が少なく、実は内心で
そのことを気にしており、人との関わりに関しては
かなりネガティブ思考。
恋人である悠斗から『ダメな子』と言われ続け、傷つけられ続け、
もう『好き』かどうかわからなくなってきているが、
「こんな自分に『好き』と言ってくれるのはあいつしかいない」
と思っており離れられない。

・朱羽（あかばね）　光大（こうた）・・・明るくとっつきやすい性格と雰囲気の持ち主。
困っていたり、苦しんでいる人がいると、部外者であっても
つい口を出して力になろうとするお人好し。
常に完璧を求め自分にも他人にも厳しい禎人を、
『常に高みを目指して努力し続けている人』と尊敬し、
密かに想いを寄せている。

・藍田（あおた）　悠斗（ゆうと）・・・取引先の社員であり、禎人の学生時代からの友人で恋人。
爽やかで柔らかい見た目と口調で、周りの人間からの人気が高い。
が、内面は少々黒く、禎人のことを一番よくわかっているのは自分。
人との付き合いはヘタクソでてんでダメ。そんな彼には自分しか
いない。と思っている。
『この子は本当にダメな子』と言い、本人の自信を無くさせ、
「こんな自分には悠斗しかいない」と思い込ませようと
仕向けている。そのせいで彼が傷ついていることにも気づいている。
愛はあるけど歪んでいる。

①取引先の会社の前（昼間）

ＢＧ：街の雑踏

禎人、取引先の会社の前で待っている。

光大、禎人の元へ駆け寄ってくる。（ＳＥ：ＦＩ）

光大　「銀城（ぎんじょう）せんぱ～い！　はぁ……はぁ……お待たせして、すみません……ッ」

禎人　「遅いぞ朱羽（あかばね）！　全く……余裕を持って行動をしろといつも言ってるだろ。取引先との打ち合わせなんだぞ。今回は間にあったとはいえ、遅れるなんてありえないことだからな」

光大　「は、はい！　すみません！」

禎人　「はぁ……もういい。とにかく、さっさと行くぞ」

光大　「はい！」

禎人・光大、取引先の会社へ入っていく。

（ＳＥ：少し流してからＦＯ）

ＢＧ（ＦＯ）

②取引先の会社：ロビー（昼間）

ＢＧ：ロビー内の雑踏（ＦＩ）

禎人・光大、取引先の会社のロビーで担当者を待っている。

禎人　「……確か、ロビーで担当者が待っていると言ってたんだが……」

悠斗、禎人の元へ駆け寄ってくる。（ＳＥ：ＦＩ）

悠斗　「禎人（さだひと）！」

悠斗、禎人に抱きつく。（ＳＥ）

禎人　「（抱き着く）！」

悠斗　「（抱き締められる）！」

光大　「!?」

悠斗　「よく来たね」

禎人　「お、おい！　（引き剥がす）ッ！　仕事中だぞ……！」

悠斗　「ははっ、ごめんごめん」

光大　「え……えっと……？」

悠斗　「（光大に気付く）？　あぁ、君は禎人（さだひと）の後輩くんだね」

光大　「あ、はい！　朱羽（あかばね）と申します！　本日はよろしくお願い致します」

悠斗　「藍田（あおた）です。こちらこそ、よろしくね」

光大　「……藍田（あおた）さんと銀城（ぎんじょう）先輩は、仲がよろしいんですね。
　　びっくりしちゃいました」

悠斗　「あぁ、驚かせてごめんね。恋人に会えたのが嬉しくてつい」

光大　「……えっ？」

禎人　「おい悠斗（ゆうと）！」

悠斗　「ふふっ、それじゃあ案内するよ。こちらへどうぞ」

光大　「えっ？　あ！　はい！」

禎人　「はぁ……ったく……」

　　悠斗・禎人・光大、歩き出す。（ＳＥ：少し流してＦＯ）
　　ＢＧ（ＦＯ）

③取引先の会社：ロビー（昼間：数時間後）

　　ＢＧ：ロビー内の雑踏（ＦＩ）
　　悠斗・禎人・光大、ロビーへ歩いてくる。（ＳＥ：ＦＩ）

光大　「藍田（あおた）さん、本日はありがとうございました」

悠斗　「こちらこそ、ありがとう。光大（こうた）くんは明るいし、言葉がハキハキしていてとてもいいね。打ち合わせが楽しかったよ」

光大　「わぁ……！　ありがとうございます！」

悠斗　「いい後輩を持ったね、禎人（さだひと）」

禎人　「どうだろうな。確かに明るい部分は長所だと思うが、まだまだ詰めが甘いところが多い。仕事は、明るさがあればいいってもんじゃない」

光大　「あ、あははは……」

悠斗　「はぁ……全く……ごめんね、光大（こうた）くん。こんな先輩じゃ、仕事やりにくいでしょ」

光大　「……え？」

悠斗　「この子、いつもぶっちょう面だし、全然笑わないでしょ？その上完璧主義者で変にプライドも高くて、他人にもきつく当たるから、人から好かれなくてね～。まぁこんなんじゃ当然なんだけど」

禎人　「（居心地が悪そうな反応）……」

悠斗　「人付き合いが全ッ然ダメなんだよ。昔からこうでね、僕くらいしか深く付き合える相手もいなくて……ほんとになんでこんなになっちゃったのか……」

禎人　「（少し傷ついたような反応）ッ……」

悠斗　「君にも、たくさん嫌な思いをさせちゃってるかもしれないけど、
多めに見てあげてね」

光大　「……。……ご心配ありがとうございます。でも、先輩は俺が一番尊敬する人です。嫌だと思ったことも、傍にいて、居心地が悪いと思ったこともありません」

禎人　「っ……朱羽（あかばね）……」

悠斗　「……そう。ならよかった。それじゃあ、僕はそろそろ行かなくちゃ。
禎人（さだひと）、また連絡するね」

禎人　「あ、あぁ……」

悠斗　「（小さく微笑み）、それじゃあね」

光大　「はい、ありがとうございました」

悠斗、その場を去る。（SE：少し流してFO）
光大、悠斗の後ろ姿を見つめる。

光大　「（なにかを考えるような反応）……」

BG（FO）

④とある居酒屋（夜）

ＢＧ：居酒屋の雑踏（ＦＩ）

禎人・光大、向かい合って座っている。

禎人、ビールを飲む。

禎人　「（飲む）……あぁっ……（光大の様子に気付く）、どうした、朱羽（あかばね）。お前も飲め」

光大　「あ、はい……。（話を切り出すことを躊躇う反応）……あの、先輩……昼間の……藍田（あおた）さんが恋人って本当ですか……？」

禎人　「っ……（観念したような息）……あぁ、本当だよ。それがどうした」

光大　「いや、その……なんというか……恋人にしては、少々先輩に厳しい？というか……そんな感じがして……」

禎人　「……」

光大　「あっ、すいません……！　急に変なこと言っちゃって……」

禎人　「いや……でも……あいつは、何も間違ってないから……」

光大　「え……」

禎人　「……あいつは……悠斗は、学生時代からの知り合いでな。
雰囲気も柔らかいし、人柄もいいから、周りから好かれる……。
それに比べて、俺は人付き合いがヘタクソで、自分の完璧主義を他人に
押し付けるし、ミスをしない様にと気を配ったつもりで周りに声をかけても、
優しい言い方一つできなくて、相手を嫌な気分にさせる……」

光大　「……」

禎人　「そのおかげで、俺は人に好かれず、ずっと避けられてきた……
俺自身、どうして人に優しくするっていう簡単なことができないのか、
わからないんだ……」

光大　「銀城（ぎんじょう）先輩……」

禎人　「悠斗（ゆうと）は、俺とは真逆の人間だ……はっ、悠斗の言う通り……
俺はほんっとに、『ダメな子』なんだよ……」

光大　「……それ、もしかしていつも言われてるんですか……？
『ダメな子』って……」

禎人　「……まぁ……事実だからな。間違ってないし……」

光大　「そんな……！　っ……先輩は、恋人にそんな風に言われて、
嫌じゃないんですか……？」

禎人　「……どうだろうな……ただ、正直最近は……
あいつのことが好きなのかどうか……わからなくなってきた……」

光大　「……。……先輩……部外所がこんなことを言うのも、
どうかと思うんですが……あの人の言葉を聞いている時の先輩、
辛そうでした……」

禎人　「っ……！」

光大　「先輩……本当に、あの人と付き合っていて、幸せですか……？」

禎人　「ッ！　……でも……あいつは、俺に唯一『好き』って言ってくれた人
なんだ……だから……ッ」

光大　「俺も！　……先輩のこと好きですよ……」

禎人　「……えっ……？」

光大、禎人の手を握る。（ＳＥ）

光大　「（手を握る）っ」

禎人　「（手を握られる）っ……！」

光大　「……先輩……俺じゃ……ダメですか……」

ＢＧ（ＦＯ）